



平成25年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年5月14日
上場取引所 東

上場会社名 はるやま商事株式会社
 コード番号 7416 URL <http://www.haruyama.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 治山 正史
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 岡部 勝之
 定時株主総会開催予定日 平成25年6月27日 配当支払開始予定日
 有価証券報告書提出予定日 平成25年6月28日
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

TEL 086-226-7101
平成25年6月28日

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期の連結業績(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期	52,371	1.6	2,831	76.1	3,126	70.2	1,850	630.7
24年3月期	51,530	1.9	1,608	△2.3	1,836	0.8	253	—

(注) 包括利益 25年3月期 1,958百万円 (563.8%) 24年3月期 295百万円 (—%)

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり 当期純利益	自己資本当期純利益 率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
25年3月期	114.21	114.17	5.7	5.6	5.4
24年3月期	15.57	—	0.8	3.4	3.1

(参考) 持分法投資損益 25年3月期 ー百万円 24年3月期 ー百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年3月期	57,372	33,255	57.9	2,053.67
24年3月期	54,040	31,575	58.4	1,940.93

(参考) 自己資本 25年3月期 33,239百万円 24年3月期 31,569百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
25年3月期	959	△2,491	2,399	7,643
24年3月期	2,710	△775	△1,844	6,776

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
24年3月期	—	0.00	—	15.50	15.50	252	99.5	0.8
25年3月期	—	0.00	—	15.50	15.50	250	13.6	0.8
26年3月期(予想)	—	0.00	—	15.50	15.50		22.8	

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期 純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	23,000	7.4	10	—	70	—	△180	—	△11.11
通期	57,500	9.8	3,800	34.2	4,000	27.9	1,100	△40.6	67.89

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
 新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 有
 ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期	16,485,078 株	24年3月期	16,485,078 株
② 期末自己株式数	25年3月期	299,820 株	24年3月期	219,748 株
③ 期中平均株式数	25年3月期	16,203,741 株	24年3月期	16,265,339 株

(参考)個別業績の概要

1. 平成25年3月期の個別業績(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期	50,766	1.6	2,783	77.6	3,103	71.0	1,842	642.2
24年3月期	49,986	1.5	1,567	△3.2	1,814	△0.7	248	—

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期	113.74	113.69
24年3月期	15.27	—

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	%	円 銭		
25年3月期	56,371		33,379		59.2	2,061.36		
24年3月期	52,938		31,708		59.9	1,949.06		

(参考) 自己資本 25年3月期 33,363百万円 24年3月期 31,702百万円

2. 平成26年3月期の個別業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	22,050	6.3	150	—	△100	—	△6.17
通期	55,400	9.1	4,000	28.9	1,140	△38.1	70.35

※ 監査手続の実施状況に関する表示

この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく財務諸表の監査手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 2「経営成績に関する分析」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績・財政状態に関する分析	2
(1) 経営成績に関する分析	2
(2) 財政状態に関する分析	3
(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当	4
2. 企業集団の状況	4
3. 経営方針	5
(1) 会社の経営の基本方針	5
(2) 目標とする経営指標	5
(3) 中長期的な会社の経営戦略	5
(4) 会社の対処すべき課題	5
4. 連結財務諸表	6
(1) 連結貸借対照表	6
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	8
連結損益計算書	8
連結包括利益計算書	9
(3) 連結株主資本等変動計算書	10
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	12
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	13
(継続企業の前提に関する注記)	13
(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)	13
(会計方針の変更)	14
(会計上の見積りの変更)	14
(連結貸借対照表関係)	15
(連結損益計算書関係)	16
(セグメント情報等)	17
(1株当たり情報)	18
(重要な後発事象)	18
5. 個別財務諸表	19
(1) 貸借対照表	19
(2) 損益計算書	22
(3) 株主資本等変動計算書	24
6. その他	27
(1) 役員の異動	27
(2) 販売及び仕入の状況	27

1. 経営成績・財政状態に関する分析

(1) 経営成績に関する分析

当連結会計年度におけるわが国経済は、東日本大震災による落ち込みから緩やかな持ち直しの動きがみられたものの、欧州債務問題や海外経済の減速等の要因により、依然として先行き不透明な状況のまま推移いたしました。しかしながら、政府の経済政策に対する期待から、長期間継続した円高から円安傾向への転換、株式市場の活性化による日経平均株価の上昇等、一部に明るい兆しも見られ、景気回復への期待感が高まっております。

特に衣料品小売業界におきましては、東日本大震災からの復興需要や景気回復への期待感を背景に、一部に消費マインドが若干の回復傾向を見せたものの、節約、低価格志向は依然強く、厳しい環境下で推移いたしました。

事業の状況といたしましては、イメージキャラクターとして「AKB48」を引き続き起用いたしました。重衣料では、超軽量仕立てで夏場に快適に着用いただける「男前クール」スーツやニット素材を使用したストレッチスーツの「男前スマート」スーツ等の高機能商品を全国の「はるやま」「紳士服マスカット」で発売いたしました。中衣料・軽衣料では、「エヴァンゲリオン」とコラボした「シャツ」「ネクタイ」「カフス」「タイバー」の発売や、当社のベストセラー商品である「iシャツ」「iパンツ」等の高機能商品をバージョンアップして販売するなど、中衣料・軽衣料の販売にも注力いたしました。

また、選び抜かれた素材を日本での縫製で作り上げる極上の新オリジナルブランド「ROYAL FLAG」を展開いたしました。

店舗施策では、大きいサイズの店「フォーエル」を中心に出店を強化し、当連結会計年度末の総店舗数は381店舗となりました。また、はるやまのブランディング再構築の一環として青森県内及び宮城県内の「紳士服マスカット」合計11店舗を「はるやま」に改称いたしました。従来の郊外型紳士服専門店から、ビジネスウェア専門店として店舗デザインを一新、多くの男性と女性にも広く受け入れられる店舗としてスタートし、集客力アップ、ブランド構築を図ってまいります。

また、これまで培ってきた縫製技術を活かして「最も小さいテーラーメイドのスーツ」への製作に挑戦し、ギネス世界記録TMの認定をいただきました（認定日2012年12月1日）。この縫製技術力を次世代へ継承するとともに、今後も縫製技術力をさらに高め、商品開発をおこなってまいります。

一方で、エコ活動の一環として「下取りセール」を継続するとともに、環境省推進の「エコ・アクション・ポイント」と関西広域連合推進の「関西スタイルのエコポイント事業」に参加し、エコ活動にも積極的に参加してまいりました。

なお当社グループは衣料品販売事業以外に、100円ショップ事業、広告代理業等を営んでおりますが、重要性が乏しいため記載を省略しております。

これらの結果、当連結会計年度におきましては、売上高523億7千1百万円（前年同期比1.6%増）と増収の結果となりました。営業利益は28億3千1百万円（前年同期比76.1%増）、経常利益は31億2千6百万円（前年同期比70.2%増）、当期純利益は18億5千万円（前年同期比630.7%増）と大幅な増益となりました。

次期の見通しにつきましては、依然としてデフレ傾向が払拭できないことなどから、国内消費動向が低迷することが予想され、衣料品小売業界においても厳しい経営環境が続くものと思われまます。

こうした中、店舗の新規出店、移転・建替・改装を実施することによる既存店の競争力強化を加速させ、マーケットシェアの拡大を図るとともに、商品ブランド力の強化やレディース商品の強化による新規顧客の取り込みにより、売上拡大を図ってまいります。

次期の業績につきましては、売上高575億円（前年同期比9.8%増）、営業利益38億円（前年同期比34.2%増）、経常利益40億円（前年同期比27.9%増）、当期純利益11億円（前年同期比40.6%減）を見込んでおります。

売上高、営業利益、経常利益につきましては、次期も増加を見込んでおります。なお、当期純利益につきましては、今期の税効果会計上の会社区分の変更などにより減少する見通しであります。

(2) 財政状態に関する分析

①資産、負債及び純資産の状況

当連結会計年度末の資産につきましては、現金及び預金が8億6千7百万円増加したこと、新規出店・既存店の改装等により有形固定資産及び差入保証金が17億7千1百万円増加したこと、また、繰延税金資産が5億9千4百万円増加したこと等の理由により、前連結会計年度末に比べ33億3千2百万円増加し、573億7千2百万円となりました。

負債につきましては、支払手形及び買掛金が37億3千7百万円減少した一方で、新規出店・既存店の改装等によるリース債務が7億9千万円増加したことや、設備投資の資金調達による長期借入金が30億9千4百万円増加したこと等の理由により、前連結会計年度末に比べ16億5千3百万円増加し、241億1千7百万円となりました。

純資産につきましては、2億5千2百万円の期末配当を実施した一方で、当期純利益を18億5千万円計上したことなどにより利益剰余金が増加し、332億5千5百万円となりました。自己資本比率につきましては、好調な業績により利益剰余金が増加した一方で、次期以降の積極的な設備投資を視野に入れた資金調達をおこなったことなどにより、前期末に比べて0.5ポイント減少しております。

②キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ8億6千7百万円増加し、76億4千3百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は9億5千9百万円（前年同期比64.6%減）となりました。好調な業績結果により、税金等調整前当期純利益を24億4千1百万円計上いたしましたが、仕入債務が37億3千8百万円減少したことなどによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は24億9千1百万円（前年同期比221.1%増）となりました。これは主に新規出店・既存店の改装等による有形固定資産取得、差入保証金の差入及び長期貸付けによる支出が21億5千3百万円あったことなどによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果得られた資金は23億9千9百万円（前年同期は18億4千4百万円の使用）となりました。これは主に長期借入れによる収入（今後の新規出店・既存店の改装等の設備投資を視野に入れた資金調達）が40億2千2百万円あった一方で、長期借入金の返済による支出が9億9百万円、配当金の支払額が2億5千2百万円あったことなどによるものであります。

（参考）キャッシュ・フロー関連指標の推移

	平成23年3月期	平成24年3月期	平成25年3月期
自己資本比率 (%)	58.1	58.4	57.9
時価ベースの自己資本比率 (%)	12.6	13.8	15.9
キャッシュ・フロー対有利子負債比率 (年)	1.94	1.52	8.36
インタレスト・カバレッジ・レシオ (倍)	27.8	32.5	15.8

(注) 自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債／キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：キャッシュ・フロー／利払い

1. いずれも連結ベースの財務数値により計算しております。
2. 株式時価総額は、期末株価終値×期末発行済株式数（自己株式控除後）により算出しております。
3. キャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フローを利用しております。
4. 有利子負債は連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っているすべての負債を対象としております。また、利息支払額については、キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。

(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社は、株主の皆様への利益還元を経営上の最重要課題のひとつとして位置づけており、今後も安定的な配当を継続することを基本方針としております。

また、内部留保につきましては、今後予想される厳しい経営環境のなかで、業績の一層の向上を図るために、新規出店、既存店のリニューアル、情報システムなどに有効投資してまいります。

当期の配当金につきましては、経営体質の強化と今後の事業展開等を勘案し、安定配当の基本方針に基づき、1株につき15円50銭とさせていただきます。なお、次期の配当金につきましても、当期同様1株当たり年間15円50銭を予定しております。

2. 企業集団の状況

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社及び子会社3社で構成されており、衣料品及びその関連洋品の販売を主な内容として事業活動を展開しております。

関連当事者である有限会社岩淵コーポレーションは損害保険の代理店を営んでおります。

当社グループの事業内容及び当社と関係会社の当該事業に係る位置付けは次のとおりであります。

- (1) 衣料品販売事業……衣料品及びその関連洋品の販売を、大型駐車場付ロードサイド店舗と都市型店舗の両形態により当社及び子会社である株式会社モリワンが行っております。
- (2) その他……当社が100円ショップ事業を行っており、子会社である株式会社ミックは広告の代理店、当社の本社駐車場の賃貸管理等を行っております。

位置付け及び事業系統図は次のとおりであります。



